

N117A - フランスで、自律走行ロボットによる荷物や食事の配達が可能に

フランスでは、自律走行ロボットを使った配達ができるようになります。数年間の実証実験を経て、政府は一定の条件のもとで、これらの車両が公道を走行することを認めました。荷物や食事などを都市部で配達することができます。

この技術は、アメリカ、イギリス、エストニアなどではすでに数年前から利用されています。例えばワシントンでは、レストランがロボットを使って料理を客のもとへ届けています。店員は注文された商品をロボットの中に入れるだけで、ロボットが自動で目的地まで移動します。

商店にとって、このシステムにはいくつかの利点があります。従来の配達員より費用を抑えられ、より多くの注文に対応することができます。また、高齢者や外出が難しい人にとっても便利です。このサービスは、人との接触が制限されていた新型コロナウイルスの流行中に特に普及しました。

しかし、これらのロボットが完全に独立して動いているわけではありません。問題が起きた場合に対応できるよう、オペレーターが監視しています。また、歩道で動けなくなったり、通行の妨げになったりすることもあります。

フランスでは、モンペリエなどで約10年間にわたって実証実験が行われてきました。新しい規則によって、今後はより広い範囲で利用できるようになります。ロボットの全長は最大4メートルで、道路上のみを走行することになります。

フランスのメーカーはこの決定を歓迎しています。都市中心部では、配達ドライバーの確保が難しくなっているからです。また政府によると、配達ロボットには都市の大気汚染や騒音を減らす効果も期待されています。

N117B - ベル＝イル＝アン＝メール：今も人々を魅了する

サラ・ベルナールの隠れ家

100 年以上前、フランスの有名な女優サラ・ベルナールは、ブルターニュ地方のベル＝イル＝アン＝メールに魅了されました。50 歳で女優として絶頂期にあった彼女は、数多くの公演の合間に静かに休める場所を探していました。画家の友人にこの島を勧められ、ポワント・デ・プーランの雄大な自然に一目で魅了されました。

その後、サラ・ベルナールは約 30 年間、ほぼ毎年夏をベル＝イルで過ごしました。彼女は多くの人を連れて訪れ、時にはボアやワニ、さらには箱いっぱいのカエルなど、珍しい動物まで連れてきました。

年月が経つにつれて、彼女は自分の好みに合わせてこの場所を整備しました。お気に入りの入り江へ行きやすくするために 82 段の階段を作らせました。また、一日のさまざまな時間に違った角度から海や景色を眺められるよう、5 つのベンチも設置しました。

サラ・ベルナールは海に面した古い軍事施設も購入しました。当時、この建物には水道も電気もありませんでしたが、彼女はすぐに気に入り、購入を決めました。そこには作家マルセル・プルーストをはじめ、当時の多くの著名人が訪れました。

彼女は島の住民とも良い関係を築いていました。嵐で漁師たちが海に出られなくなった際には、彼らを支援するためにパリで慈善公演を開催しました。

彼女の存在は、ベル＝イルの観光の発展にも貢献しました。サラ・ベルナールを一目見ようと、多くの人が島を訪れるようになったのです。

病気と多額の借金を抱えた彼女は、1922 年にこの隠れ家を離れました。その翌年に亡くなりましたが、ベル＝イル＝アン＝メールには今も彼女の思い出が残っています。

Questionnaire

1. フランス政府は新たに何を許可しましたか。
 2. 配達ロボットはすでにどの国で利用されていますか。
 3. このロボットは商店にとってどのような利点がありますか。
 4. なぜロボットはオペレーターによって監視されているのですか。
 5. このロボットには、環境面でどのような利点が期待されていますか。
-
1. なぜサラ・ベルナールはベル＝イル＝アン＝メールに休息の場所を求めたのですか。
 2. 彼女は約何年間、そこで夏を過ごしましたか。
 3. 彼女はポワント・デ・プーランにどのような設備を作らせましたか。
 4. サラ・ベルナールは島の漁師たちをどのように助けましたか。
 5. 彼女の存在はベル＝イルの観光にどのような影響を与えましたか。